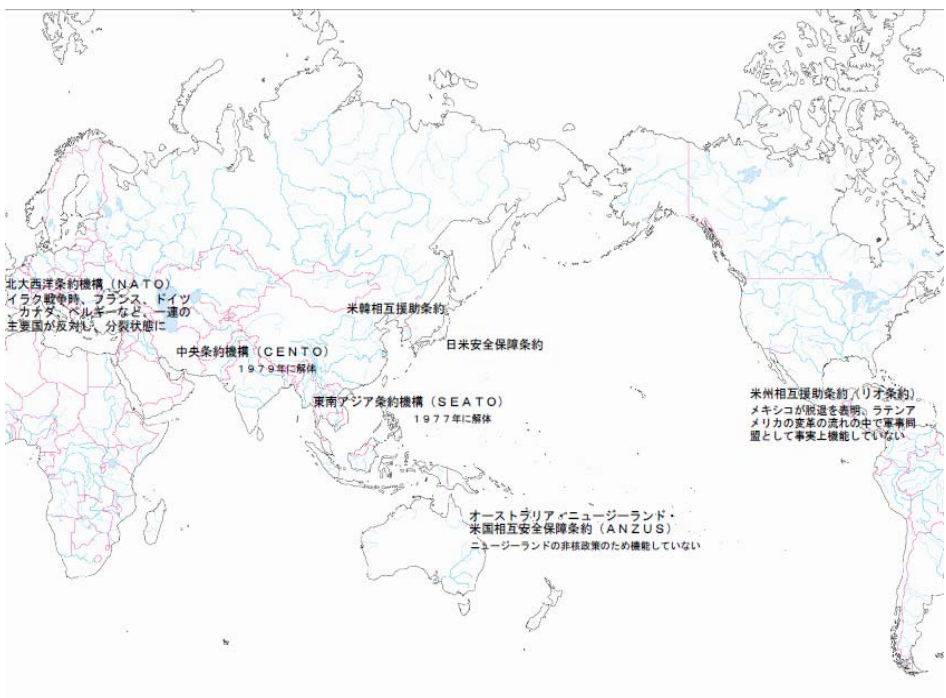


世界の流れは

話し合いでの解決

軍事同盟でまともに残っているのは、日米軍事同盟だけが実態です。東南アジア条約機構（SEATO）は一九七七年に解体、中央条約機構（CENTO）は一九七九年に解体、オーストラリア・ニューギニア・米国相互安全保障条約（ANZUS）はニューギニアの非核政策のために機能していない。

米州相互援助条約（リオ条約）はメキシコが脱退を表明、ラテンアメリカの変革の流れの中で、軍事同盟として事実上機能していない。北大西洋条約機構（NATO）はイラク戦争時、フランス、ドイツ、カナダ、ベルギーなど、一連の主要国が反対し、分裂状態です。それでも安保にしがみつくと日本に未来はある？



「戦争のない世界」をつくる流れの先頭に、アジアが立っている。

一九七六年に東南アジア友好協力条約（TAC）が結ばれました。ベトナム戦争でアジア人同士が戦争をしたことへの反省にたつて、「締約国の国民の永久の平和、永久の友好及び協力を促進すること」を目的にしています。加盟国の状況は、一九七六年インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ（当時のASEAN加盟国）のわずか五ヶ国でスタートしましたが、二十世紀中にブルネイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（以上、新たなASEAN加盟国）、パプアニューギニアと拡大し、二〇〇三年秋インド、中国が加盟、二〇〇四年日本、韓国、ロシア、パキ

スタン、ニューギニア、モンゴル、オーストラリア（これで二〇カ国、三十六億人以上）地球全体の人口が約六〇億人、世界の六割以上の人口が参加する条約に発展しています。（アジアで非加盟国は北朝鮮だけ）

この条約発足以降、TAC加盟国間では戦争が一切起こらず、「戦争のない世界」をめざす力強い動きが発展しています。インドとパキスタンの関係は、一九四七年にカシミールの帰属をめぐる第一次印パ戦争が起きて以来、紛争が続いていました。二〇〇二年には、両国関係は、核戦争の危機に直面するほど緊張しましたが、一昨年から昨年にかけて、パキスタンが陸軍兵力の一割削減を打ち出したのをきっかけに、話し合いが始まり、今年四月、五十七年

米州相互援助条約（リオ条約）
メキシコが脱退を表明、ラテンアメリカの変革の流れの中で軍事同盟として事実上機能していない

日米安全保障条約
一九七七年に解体

中央条約機構（CENTO）
一九七九年に解体

東南アジア条約機構（SEATO）
一九七七年に解体

北大西洋条約機構（NATO）
イラク戦争時、フランス、ドイツ、カナダ、ベルギーなど、一連の主要国が反対し、分裂状態に

ぶりにカシミールの停戦ラインを越えるバスの運行が始まりました。さらに、インドは、イランから天然ガスのパイプラインを、パキスタンを通って建設することを決定、二〇〇七年までに着工の運びとなっています。また、カシミール地方で地震が発生した大地震の救援活動を通じて、停戦ラインを事実上無効にして住民の往来が認められています。

二〇〇五年一〇月三十一日、パキスタンのムシャラフ大統領は、「カシミール地方全域の非武装化を考えなくては」
と述べ、パキスタン、インド両軍の撤退を呼びかけました。



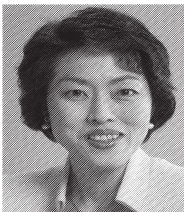
元参議院議員秘書

たむら

田村

ともこ

智子



TAC

第二条

締約国は、その相互の関係において、次の基本原則を指針とする。

- a すべての国の独立、主権、平等、領土保全及び主体性の相互尊重
- b すべての国が外部から干渉され、転覆され又は強制されることなく国家として存在する権利
- c 相互の国内問題への不干涉
- d 意見の相違又は紛争の平和的手段による解決
- e 武力による威嚇又は武力の行使の放棄
- f 締約国間の効果的な協力